

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	シロキ工業株式会社 豊川パーツセンター		階数	地上2階
建設地	愛知県豊川市大木町山ノ奥27番地3		構造	S造
用途地域	都市計画区域内(市街化調整区域)		平均居住人員	30人
気候区分	6地域		年間使用時間	2,500時間/年
建物用途	工場		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年2月	予定	評価の実施日	2018年8月15日
敷地面積	100,705 m ²		作成者	鈴木武夫
建築面積	3,619 m ²		確認日	2018年8月27日
延床面積	3,831 m ²		確認者	大塚 貢



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	88%
③上記+②以外の	88%
④上記+	88%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

音環境	温熱環境	光・視環境	空気質環境
N.A.	N.A.	N.A.	N.A.

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

機能性	耐用性	対応性
N.A.	2.9	3.6

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.1

生物環境	まちなみ	地域性・
1.0	3.0	2.0

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

建物外皮の	自然エネ	設備システ	効率的
N.A.	3.0	3.6	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

水資源	非再生材料の	汚染物質
3.0	3.0	2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

地球温暖化	地域環境	周辺環境
3.4	2.5	3.0

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

3.4

③敷地内の緑化

1.0

外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)

3.9 %

建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)

0.0 %

②資源の有効活用

3.1

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部		建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体		
		評価点	評価点	評価点	評価点	重み係数	重み係数			
Q 建築物の環境品質									2.5	
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ソーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										
Q2 サービス性能									3.2	
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
2 免震・制震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備										
2 給排水・衛生設備										
3 電気設備										
4 機械・配管支持方法										
5 通信・情報設備										

3 対応性・更新性				3.6	0.48			-	3.6
3.1 空間のゆとり		②	壁長さ比率=0.07	5.0	0.31			-	
1 階高のゆとり				5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ				5.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.19			-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.19			-			
3 電気配線の更新性		3.0	0.13			-			
4 通信配線の更新性		-	-			-			
5 設備機器の更新性		3.0	0.25			-			
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.25			-			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57			-	2.1
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30			-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30			-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.0
LR1 エネルギー					0.40				3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制					-				-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.28				3.0
3 設備システムの高効率化			BEIm=0.74	3.6	0.43				3.6
4 効率的運用				3.0	0.29				3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00				-
4.1 モニタリング				3.0	0.50				-
4.2 運用管理体制				3.0	0.50				-
集合住宅の評価					-				-
4.1 モニタリング					-				-
4.2 運用管理体制					-				-
LR2 資源・マテリアル					0.30				2.9
1 水資源保護				3.0	0.15				3.0
1.1 節水				3.0	0.40				-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60				-
2 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67				-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				-
2 非再生性資源の使用量削減				3.0	0.63				3.0
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07				-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25				-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 独自	-	3.0	0.21				-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				1.0	0.21				-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-				-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	解体時におけるリサイクルを促進する対策をしている	5.0	0.25				-
3 汚染物質含有材料の使用回避				2.9	0.22				2.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用			有害物質を含まない建材を使用している	5.0	0.32				-
3.2 フロン・ハロンの回避				2.0	0.68				-
1 消火剤				2.0	0.50				-
2 発泡剤(断熱材等)				-	-				-
3 冷媒				2.0	0.50				-
LR3 敷地外環境					0.30				2.9
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率が一般的な建物に対して8%	3.4	0.33				3.4
2 地域環境への配慮				2.5	0.33				2.5
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25				-
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50				-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25				-
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25				-
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25				-
3 交通負荷抑制		独自	駐車場の確保に関する取組をしている	4.0	0.25				-
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25				-
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33				3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				-
1 騒音		独自		3.0	1.00				-
2 振動		独自		-	-				-
3 悪臭				-	-				-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40				-
1 風害の抑制				3.0	0.70				-
2 砂塵の抑制				-	-				-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30				-
3.3 光害の抑制				3.0	0.20				-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70				-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				-

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

シロキ工業株式会社 豊川パーツセンター新築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:3.9%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 シロキ工業株式会社 豊川

計画上の配慮事項	
総合	工場施設として周辺環境に配慮した配置計画、緑地計画とした。
Q1 室内環境	評価対象外
Q2 サービス性能	空間のゆとりに配慮している。 設備機器、配管の更新性に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	緑の量の確保に配慮している。外構緑化指数13.8%である。 周辺のまちなみや景観に対して配慮がなされている。 地域性・アメニティへの配慮に関して取組が行われている。 敷地内の歩行者空間等へ風を導き、暑熱環境を緩和している。
LR1 エネルギー	設備の高効率化を図っている。一次エネルギー消費量はBEIm=0.74である。
LR2 資源・マテリアル	主要構造部の材料使用量の削減に配慮している。
LR3 敷地外環境	地球温暖化への配慮がなされている。 大気汚染防止の配慮がなされている。
その他	特に考慮していない。